

みずほCustomer Desk Report 2019/08/07号(As of 2019/08/06)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	105.86
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	105.62	1.1242	118.76	1.2156	0.6763
SYD-NY High	107.11	1.1249	119.88	1.2209	0.6800
SYD-NY Low	105.52	1.1168	118.38	1.2136	0.6750
NY 5:00 PM	106.47	1.1202	119.31	1.2170	0.6759
NY DOW	26,029.52	311.78	日本2年債	-0.2200	0.00bp
NASDAQ	7,833.27	107.23	日本10年債	-0.1900	1.00bp
S&P	2,881.77	37.03	米国2年債	1.5961	1.88bp
日経平均	20,585.31	▲134.98	米国5年債	1.5252	▲0.10bp
TOPIX	1,499.23	▲6.65	米国10年債	1.7150	▲0.18bp
ソコ日経先物	20,615	365	独10年債	-0.5410	▲2.25bp
ロンドンFT	7,171.69	▲52.16	英10年債	0.5125	0.15bp
DAX	11,567.96	▲90.55	豪10年債	1.0475	2.75bp
ハンセン指数	25,976.24	▲175.08	USDJPY 1M Vol	7.31	▲0.80%
上海総合	2,777.56	▲43.94	USDJPY 3M Vol	7.45	▲0.60%
NY金	1,484.20	7.70	USDJPY 6M Vol	7.31	▲0.49%
WTI	53.63	▲1.06	USDJPY 1M 25RR	-1.75	Yen Call Over
CRB指数	170.54	▲0.95	EURJPY 3M Vol	7.49	▲0.79%
ドルインデックス	97.59	0.07	EURJPY 6M Vol	7.55	▲0.59%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
8月6日	10:30	豪 貿易収支	6月 AS\$8036m	AS\$6000m
	13:30	豪 RBAキャッシュレート	6-Aug 1.0%	1.0%
	14:00	日 景気一致指数・速報	6月 100.4	100.4
	15:00	独 製造業受注(前月比)	6月 2.5%	0.5%
	16:30	独 マークイット建設業PMI	7月 49.5	-
8月7日	02:05	米 ブラド・セントルイス連銀総裁 講演	「利下げを継続する必要ない」	

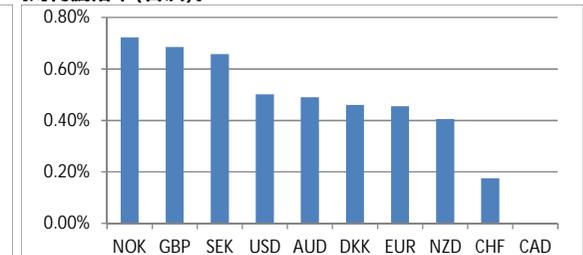
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
8月7日	08:50	日 日銀 主な意見	-	-
	15:00	独 鉱工業生産(季調済/前月比)	6月 -0.5%	0.3%
	22:30	米 エバンス・シカ連銀総裁 講演	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	105.50-107.20	1.1150-1.1250	118.50-120.00

【マーケットインプレッション】

昨日のドル円相場は反発した。昨日の朝、米国財務省が中国を為替操作国に認定すると発表したことから一時ドル円は105.52まで下落する場面もあったが、中国の人民元Fixingが予想より元高に設定されたことを受け、反発。実需の買いやストップを巻き込み急騰し、107.11まで上昇した。その後海外時間では、106円半ばの推移となった。本日のドル円相場は引き続き上値の重い展開を予想する。人民元は5日に2008年以来で初めて人民元が1ドル=7.0元の水準を突破し、足元も水準を上回っている。中国人民銀行は不安の払拭に努めている模様だが、不透明感は強い。また、昨日の米国株式市場は反発したものの、米金利はかかなり低く、センチメントが大きく改善したとは言えず、106円台で上値の重い展開になりそうだ。

東京	105円台後半で推移していたドル円は、早朝に米国財務省が中国を為替操作国に認定すると発表したことから一時105.52まで急落、東京時間は105.62レベルでオープンした。10時頃に中国市場において、ウォンと人民元の基準値が予想より元高に設定されたことで、ドル円は106円台に反発。その後、実需の買いによって徐々に上昇。106.50レベルを超えると、ストップを巻き込んで急騰し、107.11をタッチ。その後買いは続かず、106.49レベルで海外に渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、106.49レベルでオープン。アジア時間の値動きが一段落し、米中のヘッドラインを警戒して方向感のない推移。昼過ぎに、中国人民銀行が外国企業に「人民元は下落し続けない」と伝えたとの一部報道で106.64円まで上昇する場面も。結局106.56レベルでNYに渡った。ロンドンドルは、1.2159でオープン。内閣不信任への憶測が飛び交う中で一時1.2209まで買われるも、程なく1.22を割り込み1.2178でNYに渡った。(ロンドン7:30 00531 444 179 川田)
ニューヨーク	106.56レベルでNYオープン。朝方はケロミNEC委員長の「トランプ米大統領は中国との協議継続を希望。対中追加関税についても状況は変わり得る」との発言を受けて小幅に上昇するが、タリ平均の上げ幅を縮小する動きに圧迫され、106.25まで反落。午後にはブラド・セントルイス連銀総裁が「貿易情勢が世界成長を冷やしている。等と述べたものの、ドル円の反応は限定的で、106.50近辺でもみ合いとなる。その後、タリ平均が上げ幅を拡大し26,000ドル台を回復したものの、米金利のじりじりと低下する中、ドル円も上値を抑えられる。結局、方向感の無い推移が続き、106.47レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは、米10年債利回りが1.67%台まで低下し、欧米の金利差が縮小するとの思惑でユーロが買い戻され、一時1.1249まで上昇。買い一巡後、1.1200近辺でもみ合い、1.1185でNYオープン。朝方はケロミNEC委員長の発言や高寄りした米株を手掛かりにドルが買われ、一時1.1168まで下落するが、ドル買いは長続きせず、往って来いとなる。新規の手掛かり材料が乏しい中、午後1.1200近辺で方向感の無い推移となり、結局、1.1202でクローズ。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:小笠原・原田